

最終レポート

李 婷玉 (中国)

1. Trainee Program 研修プログラム

この研修制度は、岡山県と江西省の両者の連携を促進することを目的としています。私にとって、3 か月間岡山で過ごすことができ、素晴らしい体験になり、日本と日本人について、実に多くのことを学ぶことができました。

まず初めに、岡山県と岡山県国際交流協会の皆様に、私が岡山での生活に順調に適應できるようご支援いただいたことに、心からお礼申し上げます。

最初の1週間、私は日常生活に必要な物品の買い物に時間を使いました。また、従うべき生活上の規則についても学びました。特に、自転車の交通規則には驚きました。中国で、私は子どもの頃から自転車に乗っていますが、両親から自転車に乗るときには気をつけるようにと言われただけです。しかし、日本では、規則が自動車の運転と同じように厳しく定められているので、歩行者を守る良い方法だと思います。

第1週が過ぎてから、私の日本語研修が始まりました。とても親切で素晴らしい先生方に日本語を教えていただき、言語だけでなく、真剣に物事に取り組む姿勢や仕事への情熱なども学びました。先生方は高齢の婦人でしたが、この特別な仕事に打ち込んでいます。私も年をとったら、同じように何か有意義なことができればと思います。

先生方のおかげで、私は日本語の学習だけでなく日本についても学びました。文化、習慣、歴史などです。私も教師なので、何時間も立ったままで教えるのは大変なことだとわかります。しかし、先生方は全く疲れた様子を見せず、活力に満ちていました。私が学んだことは、どんな仕事であれ一生懸命に最善を尽くすべきであるということ、そして、どんなに困難に直面しようともくじけるな、ということでした。また、先生方は、私に毎日日記を書くことを課しました。私の毎日は単調な生活でしたが、できるだけ日本語を練習することを心掛けました。

放課後、時々私は岡山の街歩きをしました。岡山はとても快適な街です。たいいてい私は JR 岡山駅のあたりに行きました。たくさんのお店や美味しい食べ物の店があります。買い物をしたり食べ物を買ったりするとき、私は日本人と会話ができないことに不安はありませんでしたが、時には私の欲しいものや店員が言っている内容をはっきりさせるのに時間がかかることがありました。今ではお店で使う用語に慣れてきたので、まったく問題なく買い物をすることができます。3 週間の日本語研修は大いに効果がありました。言語学を学んだ者として、私は、この日本語の補習は外国人が言語を学ぶのにとっても役に立つプログラムだと思います。

週末には私は旅行に出かけました。宮島、姫路、大阪、京都、東京、そして岡

山県内または近くの町などです。また、茶道などの伝統的な日本の風習を体験することもできました。茶道は、とても落ち着いた雰囲気ですべてが静かに行われ、小さな子供に至るまで、すべての人がお互いに相手を尊重し、礼儀正しくふるまっていました。

私の好きな場所は京都です。とても美しい街で、京都には多くの伝統的な建物があります。京都には2日間滞在しましたが、残念ながら、行くことができなかった場所がまだあります。とてもたくさんの観光客がいて、公共交通機関もとても便利です。食べ物もとても美味しく、特に抹茶アイスをたくさん食べました。日本の昔の首都として、京都には奥深い歴史があります。京都に行って、私は日本と日本人について理解を深めることができました。そして、旅行の期間中、私は日本語を練習することができました。

11月3日、(日本語講師の)大辻先生が私を茶道体験に誘ってくださり、とても素晴らしい経験をすることができました。茶会は、とても落ち着いた雰囲気の中で進められ、だれもが静かに礼儀正しくふるまい、お茶を点ててくれた方はとても優雅でした。私が最も感銘を受けたのは、小さい子どもたちまでが客人に対してとてもつつましく、作法を身に付けていたことです。茶道は、作法とお茶を飲むことの両方で成り立っていますが、お茶の前には伝統的な和菓子もいただきました。

茶会の後、私たちは大辻先生のお宅に招かれました。先生はとても親切で親しみやすい方で、私たちにケーキとデザートを用意してくれていました。おしゃべりもたくさんしました。先生はいろいろな所に旅行に行っておられ、お土産が居間に飾られていました。将来、私も先生のような家に住み、先生のように世界中を旅行して、元気と情熱にあふれ、誰にでも優しく接することができるような人になりたいと思います。先生はご高齢ですが、今でもご自分の特性を生かして社会に貢献しておられるのです。

2. Study in OKAYAMA University 岡山大学での研修

松田教授のもとで研究できて、とても光栄でした。先生はとても知識が広く、私は多くのことを教えていただきました。初めて先生の研究室に伺った時、先生の蔵書に驚かされました。とてもたくさんの書籍があり、とても大切にしておられたからです。

先生は初日に学生たちを夕食会に連れて行ってくれました。歓迎会のようなもので、私は研究室の学生全員に会いました。その内3人は中国の留学生だったので、私は言葉の問題なしで仲良くなりました。岡山大学での研究や学生生活についてたくさん教えてくれました。普段の過ごし方とか、研究の方法などです。今ではとても良い友人です。松田先生は、授業の後では友人のように接してよいと言ってくれました。最初の夕食会の日、終わるのがとても遅くなったので、もうバス便がありませんでした。それで先生はもう一人の中国人留学生と一緒に歩いて私の宿舎まで送ってくれました。私はとても感動しました。二人に迷惑をかけてしまったことを済まなく思いました。二人とも私のことをとても心配してくれたのです。

その後は隔週で水曜日に私は午後 5 時 40 分からのゼミに出席し、ゼミの後には、先生を囲んで皆で夕食を食べました。友人を作るのにとっても良い機会となり、私たちはとても親しくなりました。松田先生は私に数冊の本を渡し、読んでレポートを書くようにと言われました。毎日大学で先生にお会いし、読んでいる本の内容について先生に質問します。また、この他に、先生は私のために OSK、倉敷中央病院、倉敷の社会福祉施設の 3 か所の見学を手配してくださいました。これらの視察見学で私は多くのことを学ぶことができました。

まず初めに OSK で学んだことは人材管理システムです。OSK の企業理念は、健康な身体をつくり、幸福な人生を送ることです。この理念に従って、OSK は 1972 年に設立され、現在では成人のための 4 つのスポーツクラブと 4 つの子どものためのスポーツクラブを有しています。そのほか、健康促進プログラムを策定し、高齢者のための活動を実施しています。

それから私は OSK の人材部門の組織について学びました。トレーナーと呼ばれる特別な資格制度があります。OSK に入社した人は誰でも、基礎から始めなければなりません。そして 3 段階のテストを受け、最終的に **dolena (trainer?)** になることができます。トレーナー試験は筆記試験ですが、スイミングとスポーツの講師については、別の実技試験もあります。毎年、OSK では 2 名の職員がトレーナーの資格試験の試験官に任命され、不定期の職員も含め全員が受験します。試験では 50 の問題が用意され、2 名の試験官が 25 問ずつ職員に出題します。11 月 30 日までに試験の結果が公表されます。実技試験については、面接のような形で毎年 2, 3 回実施されます。私たちは、この人材開発システムについて聞いたあと、ジムの見学をしました。

2 か所目の見学は病院でした。倉敷中央病院に着いたとき、その美しい建物に驚きました。まるでホテルみたいです。病院の中に入りましたが、静かで清潔で快適でした。私が驚いたのは、温室があって、訪問客や患者が中で休憩できることでした。病院内の装飾もよく考えられてあり、有名な絵や、観葉植物、カフェなどがあり、とてもきれいで居心地の良い雰囲気でした。このように私が病院のハードウェアにこだわるのは、これらによって病院が自分の家のように感じられて、患者が、どんな重病を抱えていたとしても、美しい環境で心が安らぎ、ひいては病院での治療に良い影響を与えるからです。

3 か所目は社会福祉施設（愛育福祉会）です。ここの保育園（めばえ保育園）は倉敷市の南部の、海の近くににあります。保育園の規模はあまり大きくありませんが、清潔できちんとしており、すべてが良く片付いていました。保育園の事務室で、私は、保育カリキュラムの調整、緊急時対応と防災が必須の課題だと知りました。この面では、日本はとても進んでいます。英語教育も必要とされていますが、これは中国も同様です。私の印象に強く残ったのは、施設がとても人間的によく考えられて設計されていたことです。例えば、毎日の昼食とおやつの見本が幼稚園の入り口の前のガラスケースの中に置かれます。ですから保護者は子どもが何を食べたのか直接知ることができます。また、調理室の窓が高低 2 段階になっており、小さい子どもでも配膳トレーや食べ物の受取や返却が自分でできるようになっています。さらに、保育園の職員は職務に関連する専門の免許を持っています。

保育園の隣にデイサービス（めばえデイサービスセンター）があり、市民は小さい子どもや年老いた両親を同じ場所に預け、一日の終わりに一緒にお迎えすることができます。これは、共働き家庭にはとても便利です。そして、保育園の子どもたちもときどき老人たちを訪れ、双方にとって良い効果をもたらしています。デイサービスセンターに加え、あまり遠く離れていない所に、普通の老人施設（グループホームめばえ）もあります。高齢者が快適で清潔な家に住み、専門のスタッフが彼らの世話をしています。

この介護施設は半官半民の法人で、国からも助成金をもらっています。入居者は施設に入居費を年金から支払うだけでよく、施設は行政の助成も受けているので、ウィン・ウインの関係です。この福祉法人は4つのグループ組織を有し、それぞれが各々異なった人事制度を持っており、それぞれの職員は異なった免許を持っています。各グループのリーダーは、定期的に集まって会議を持ちます。リーダーは法人職員の中から選ばれます。

これらの視察見学の他、松田教授は私に本の講読の課題を与えました。企業文化に関する書籍で、私が最も関心を寄せている分野です。これらの本を読んだ後、私の英語能力は格段に上達しました。

毎日通学して松田先生にお会いし、研究内容について話し合いました。そして先生は意見をくださったり、討議している問題の背景にある事柄についての知識を教えてくださいました。

このようにして、大学での研修期間中、私は多くの専門的知識を増すことができ、また、多くの友人を作ることができました。松田先生の研究室には多くの中国人学生がいて、これらの女子学生と仲良くなり、何度も夕食を一緒に食べに行ったりしました。

3. Future Career Plan 将来のキャリア計画

私がここで学んだことは私の将来の勉学と日常生活に大いに役立つことでしょう。

まず初めに、岡山大学で学んだ知識は企業文化に関するもので、まだ中国ではそれほど開発が進んでいない分野です。一方、日本企業では、早くから発達し、この分野で優れた業績を上げています。顧客に対する態度などは、文化の発達の鍵となる要因です。私は管理部門の職員として大学の先生方に応対しますが、先生方の中には、管理部門の対応に満足していない人たちがいます。私は仕事に戻ったら、先生方の要求を満たすよう最善を尽くし、先生方の課題解決を助けたいと思います。

第二に、日本人の仕事と生活に対する態度は、学ぶべきところがあります。日本人はとても勤勉で厳しく、すべてのことが1か月前には決められ、きちんと予定通りに行われます。この精神を私は素晴らしいと思います。私も今後、仕事でより良い結果を出すために見習いたいと思います。私は、自分の仕事を完璧にするためには努力を惜しまず、どんな細かいことにも注意を払って、ミスを最小限に抑え、大学の先生方により良い応対をしたいと思います。

第三に、私は、5人の先生から日本語を習いましたが、それぞれの先生はそれ

ぞれ独自の教え方とスタイルがありました。私も語学の教師なので、この多様な教授法から実に多くのことを学びました。日本に来る前、私は語学教師として、生徒がどのような気持ちで第2外国語を学んでいるのかだけ理解していればよかったのでした。日本に来て、生徒として日本語を学んで、先生方の教え方のどの部分が私の授業で使えるか、わかるようになりました。さらには、先生方の情熱と献身は、私が仕事で取り入れていくべき最も大切なことです。どこにしようと、誰に教えようと、私は生徒に対していっぱい的情熱を注ぎ、仕事に専念するべきだと分かりました。

3か月は短くもなく長くもない期間で、私はこの機会を通じて日本と日本人への理解を深めることができたことを感謝しています。私たちは共通点がたくさんあります。私は、日本人の長所を自分の日頃の仕事と生活に取り入れたいと思います。また、友人たちにも広めていきたいです。

本当にすべての事柄に感謝しています。私たちの友情は永遠です！



後乐园 visiting

後樂園「幻想庭園」見学（筆者は左端）



大辻先生家 visiting

大辻先生宅にて（先生は左側最後列、筆者は右側最前列）